

減量・代謝改善手術の詳細

① 手術の対象となる方

✓ 基本条件

- BMI が 32 以上
- 肥満に関連する病気（下記参照）を合併
- 6 か月以上の内科的治療（食事・運動・薬物療法）を継続している

*条件を満たしていても、状況により手術が受けられない場合があります。詳細は、外科担当医とご相談をお願いします。

✓ 保険適応の詳細（2024 年 6 月改定）

【BMI が 35 以上】

- 以下の疾患を 1 つ以上合併している

【BMI が 32～34.9】

- 以下の疾患を 2 つ以上合併している（糖尿病の場合は HbA1c 8.0 以上）

🔗 対象となる内科的併存疾患

- ✓ 糖尿病：血糖値が高く、薬や注射が必要な状態
- ✓ 高血圧：血圧が高く、心臓や血管に負担がかかる
- ✓ 脂質異常症：血液中の脂肪（コレステロール・中性脂肪）が多い
- ✓ 眠時無呼吸症候群：いびきがひどい。寝ている間に呼吸が止まり、熟睡できない
- ✓ 非アルコール性脂肪肝疾患（NAFLD）：脂肪肝や脂肪がたまり炎症を起こすもの

② 手術の方法

当院では、腹腔鏡下スリーブ状胃切除術を行っています。胃の約 80%を切除し、残った胃はバナナ 1 本分ほどの細い形になります

- 腹部に小さな孔を数カ所開け、腹腔鏡カメラを使って手術を実施
 - 手術時間：通常 2～3 時間（全身麻酔）
 - 入院期間：通常 1～2 週間
-

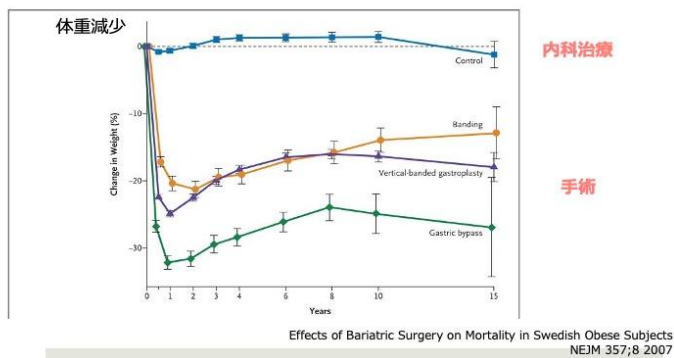
③ 手術の効果



- 平均で元の体重の 20～30%の減量と長期的な減量効果の維持が期待できます
- 糖尿病・高血圧・脂質異常症・睡眠時無呼吸症候群などの改善率が高い
- 特に糖尿病では、寛解（薬不要の状態）となる方もいます

SOS試験 手術と内科治療の比較 減量効果

- 15年間の前向き試験 4047名の重症肥満患者。
- 手術（3種類）vs 非手術群



④ 手術の合併症

🏥 入院中に起こる可能性があるもの

- 出血、縫合不全、感染、肺塞栓など
稀に、再手術が必要になることもあります
死亡率は 0.3%以下（日本での胆石手術と同程度）と報告されています

🏠 退院後に起こる可能性があるもの

- 胃管の狭窄、逆流性食道炎（嘔吐や胸焼け）
- 栄養障害（貧血、脱毛、骨粗鬆症など）。→サプリ服用がおおすすめ。
- リバウンド（重度の場合は再手術が必要になることも）

⑤ 手術前の準備

禁煙のお願い

禁煙ができない場合には、手術は延期します。

手術前減量のお願い

手術の安全性と効果を高めるため、現在の体重から 5%以上の減量をお願いしています。
この減量は、術後の合併症リスクを減らし、より良い治療結果につながる事が知られています。

準備期間は概ね 6 ヶ月。医師・スタッフと相談しながら、無理のない方法で取り組んでいただきます。

⑥ 手術後の経過観察

手術の効果を最大限に引き出すためには、術後の食事管理と生活習慣の改善が重要です。
外科医だけでなく、内科医・管理栄養士が連携し、外来での減量治療を継続的にサポートします。

⑦ 手術費用について

- 腹腔鏡下スリーブ状胃切除術は、条件を満たした方限り保険診療で実施されます
- 高額療養費制度を適用した場合、ひと月あたりの費用は収入に応じた自己負担限度額内となりますので、下記リンクからご確認下さい。

全国健康保険協会 HP (<https://www.kyoukaikenpo.or.jp/g3/sb3030/r150/>)